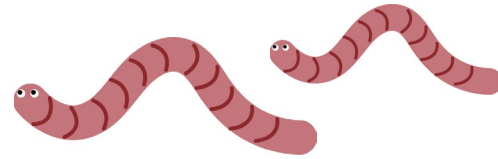


# 第1回 日本成長戦略会議 海洋WG

2026年2月6日  
帝人株式会社 シニアアドバイザー  
鈴木 純

## 鈴木 純



- 1958年 東京都杉並区生まれ  
生き物を追いかけて育つ  
研究者になるつもりで、大学は、理学部 動物学教室に進学  
修士論文: “放射線のミミズへの影響 主に生殖細胞への影響について”
- 1983年 帝人株式会社入社
- 2014年 帝人株式会社  
代表取締役 社長執行役員 CEO
- 2022年 帝人株式会社 取締役会長
- 2023年 帝人株式会社 シニア・アドバイザー  
経済同友会 副代表幹事  
出光興産株式会社 社外取締役  
MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社 社外取締役  
APECビジネス諮問委員会(ABAC)日本委員 (～2026年1月)
- 2025年 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 (CSTI) 有識者議員  
ガバニングボードとSIP/BRIDGE評価委員会の座長を務める
- 2026年 日本成長戦略会議海洋WG構成員



総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)

議長：内閣総理大臣

構成員：関係閣僚＋有識者議員

有識者議員会合（木曜会合）

ガバニングボード  
(SIP/BRIDGEの運用指針、実施方針策定)  
座長：鈴木

基本計画専門調査会

評価専門調査会

その他にも複数の会議体  
(AI,量子、官民連携投資等々)

SIP/BRIDGE評価委員会  
座長：鈴木

SIP---市場が見えつつある重要課題に5年程度集中的に投資を行い、社会実装を推進

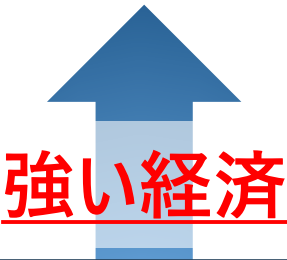
BRIDGE---SIPや各省庁の研究成果を社会課題の解決や新事業創出につなげる「橋渡し」役、実施期間は1～2年

第7期科学技術・イノベーション  
基本計画

- 科学技術・イノベーション基本法に基づき5年ごとに策定
- 政策の方向性を示し、政府が取り組む施策を整理すると共に、5年間の研究開発投資目標を明記
- 春ごろに閣議決定されることを目途に、現在策定中

日本を取り巻く環境

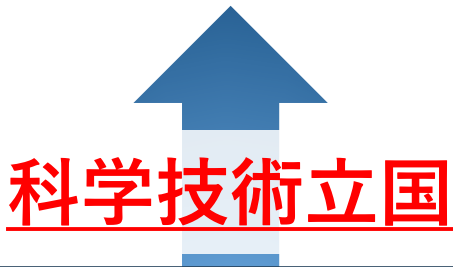
- 国際秩序の変革、地政学的変化、安全保障も含めた競争環境の変化
- AIや次世代半導体等、先端技術分野での国際競争の激化
- 日本の相対的な国際競争力の低迷、労働人口の減少



日本成長戦略会議

17の戦略分野における官民連携での危機管理投資・成長投資の促進

AI・半導体	造船	量子	合成生物学・バイオ	航空・宇宙	デジタル・サイバーセキュリティ
コンテンツ	フードテック	資源・エネルギー安全 保障・GX	防災・国土強靱化	創薬・先端医療	フュージョンエネルギー
マテリアル	港湾ロジスティクス	防衛産業	情報通信	海洋	



第7期科学技術・イノベーション基本計画

基本的方向性

- ① 科学の再興（基礎研究力の強化・人材育成）
- ② 技術領域の戦略的重点化（新興・基盤：16、国家戦略：6）
- ③ 国家安全保障との有機的連携
- ④ イノベーション・エコシステムの高度化
- ⑤ 戦略的科学技術外交の推進
- ⑥ 推進体制・ガバナンスの改革

- 科学技術・イノベーションは国を支える礎、30年の計で考えるべき
- 国の向かう方向と科学技術・イノベーション政策は一致すべき

1. **基礎研究力の抜本的強化（選択と集中がそぐわない底辺拡大型）**  
選択と集中が不可の領域、科学技術予算の一定割合を継続投入
2. **重要技術領域への継続的投入（プロジェクト型/アウトプット・アウトカムが明確）**  
自律性と優位性・不可欠性領域の探索・決定
3. **戦略的領域へのリスクマネーの投入（プロジェクト型/アウトプット・アウトカムが明確）**  
日本の勝ち筋（＝戦略的不可欠性）の形成
4. **国家安全保障との連携（プロジェクト型/アウトプット・アウトカムが明確）**

# 我が国の海洋

領土面積		領海+EEZの面積	
ロシア	1,710	1 米 国	762
カナダ	998	2 オーストラリア	701
米 国	963	3 インドネシア	541
中 国	960	4 ニュージーランド	483
ブラジル	851	5 カナダ	470
オーストラリア	769	6 日 本	447
⋮			
日 本	38	61	

(注)単位は万平方キロメートル。領土面積は2008年  
日本経済新聞、2011年1月5日記事より

日本の海洋をめぐる状況を考えると、「産業」と「安全保障」を切り離して語ることは難しい  
むしろ両者を統合して戦略的に扱うことが不可欠



海上保安庁HPより  
領海 (含：内水) + 排他的経済水域 (含：接続水域) 約447万km<sup>2</sup>  
領海 (含：内水) + 排他的経済水域 (含：接続水域) + 延長大陸棚 ※ 約477万km<sup>2</sup>



## 目標

「海洋産業」に関して、「勝ち筋」と「キャッチアップ」すべきことを整理し、官民による戦略的投資の道筋（ロードマップ）を策定

## 重要ポイント

- 主軸に安全保障的概念
- 我が国の将来産業としての「勝ち筋」を見極め、集中投資 & 民間投資の呼び込み
- 実装、産業化までのタイムフレーム

## 以下、私見

社会実装/産業に結び付きそうなのは

- ① 海底ケーブル（安全保障）
- ② レアアース（安全保障）
- ③ 海洋ロボティクス（安全保障、海洋産業）
- ④ CCS（環境、海洋産業）

### 【勝ち筋の一案】

AUV (Autonomous Underwater Vehicle 自律型無人潜水機) とソナー技術 (音波で物体や地形を探知)

- 海洋産業への貢献---海洋資源探査、海洋ケーブル・パイプラインモニタリング、漁業支援など
- 安全保障への貢献---領海・EEZの監視、海底インフラ防護、改定状況把握など

